（事例１）余暇活動で動画を選択して楽しめるように

高等部３年女子。知的障害はほとんどないと思われるが心理面の影響を受けて全身の筋緊張が亢進してしまい、強いストレスを受けやすい。発話も「うん」「いや」を声と首の動きで表現できる程度。車いすに乗っていることが難しくベッド上か床上で臥位で過ごしている。スイッチを手で操作して機器の ON／OFF をすることについては十分に理解しているが、興味がないのか行動に移せないことも多い。担任からは、「卒業後は病院や入所施設のベッド上で過ごす時間が多くなることもあり自分で取り組める余暇活動を身につけさせたい」という相談であった。

担任に聞き取りを行い、タブレット端末とスイッチを組み合わせ本人が興味のある動画を自分のペースで簡単に切り替えながら視聴できる方法を担任に提案した。合わせて、「好きだから」という理由で用意する動画が固定化しないよう、本人が見たことがない動画も毎回選択肢に含めることを留意点として付け加えた。

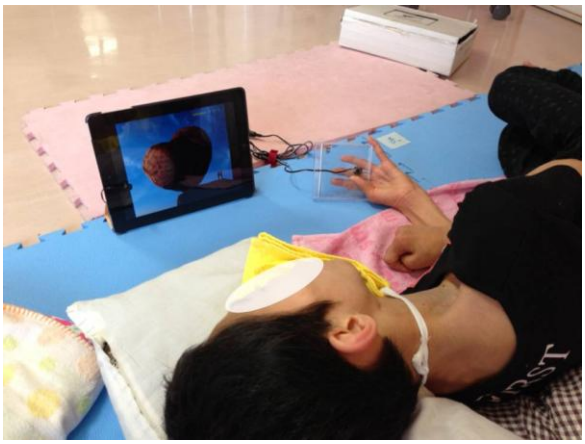

図６　左手のスイッチを押して動画を切り替える様子

取組の中でこれまで担任が思いもしなかった、お笑い番組やバラエティ番組の映像を楽しむようになったことは意外な発見となった。スイッチ操作も１回押すと順送り、２回押すと逆送りという複合的な操作が可能になった。この活動をベッドサイドでのテレビのコントロールに広げることで卒業後の生活の一部として応用できるよう取組が進んでいる。

※　本事例（特別支援教育教材ポータルサイト掲載事例）は、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所「B-292　特別支援学校（肢体不自由）の AT・ICT 活用の促進に関する研究－小・中学校等への支援を目指して－」(平成 26 年 3 月)，45-46 に記載された内容である。